

みずからあいさつや感謝の気持ちを表現できる生徒を育てる支援

-特別支援学級での道徳を中心としたバザーに関連する学習を通して-

道徳班 清水 直樹（中学校教諭）

◆研究の概要

特別支援学級に在籍している三人の生徒は、少人数での生活に慣れていて、クラスで居心地の良い雰囲気の中で個性を発揮し、互いに楽しく生活している。しかし、協力的な生活態度が不足している。そこで、学校行事で行っている地域のバザーに出店し、自分たちの作品などを販売することを通して、他者と上手にコミュニケーションを図るための基礎となる、あいさつや感謝の言葉を自分から言えるようにする。そのために、販売活動に結びつくような体験活動を取り入れた道徳の授業を中心に学習していく。

◆全体構想図

バザーに関連した学習（国語（相手にわかる話し方の工夫）
数学（お金の数え方、電卓で計算をする）総合的な学習の時間（進路
学習）、生活単元学習（進んであいさつをしよう、紙漉きをしてカレ
ンダーを作るなどの作品作り）

道徳学習（体験的活動）

生徒の実態

- ・親しい友達とは交われるが、他の人とは上手に交われない。
- ・自分に自信が無く、自分の考えを言えない。



1【勤労・奉仕】「お母さんの朝市」

副読本の学習後、職場体験での活動を発表し合い労働の大切さや他者のために何ができるかを考え自己有用感を身に着ける。

2【感謝】「ありがとうのいみ」

品物販売の場面で、ロールプレイを通してお客様への接客の大切さを実感したり、感謝の気持ちを伝えたりすることの意義を知る。

3【協力】「おにぎりのあじ」

モラルジレンマの手法を用い、相手の意見をしっかりと聞き、お互いを尊重し合いながら協力することの大切さに気づく。

4【勤勉・努力】「文字を書く喜び」

実際に口で文字を書き、困難を克服するために努力することの尊さを知り、これまでの自分のがんばりを振り返る。

協力学級での授業（体育・音楽・美術（生徒間の交流、集団での学習）
日常の指導（短学活（友達にってもらって良かったこと・親切に
したこと探し）あいさつ（日常化）
職員との協力（励ましの声かけをし、あいさつしやすいう雰囲気作り）

みずからあいさつや感謝の
気持ちを表現できる生徒



◆成果と課題

バザーを成功させるために、道徳学習において体験的活動を取り入れたことで、より具体的にあいさつや感謝を表すことの大切さが身についた。さらに職員が協力的に生徒たちに励ましの声かけをしたことで日常化が図れた。今後はさらに社会性を広げるために、自分で考え判断して場に応じたあいさつや行動ができるような指導の工夫をしたいと考える。